

今月のおすすめ



= 1・2年
= 3・4年
= 5・6年

- あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします -

「ぼうし」(えほん) ジャンブレット/作 ほるぷ出版

はりねずみのハリーが、風でとんできたくつ下に鼻をつっこむと、針がささってぬけなくなってしまいました。その姿を見て、動物たちはばかにします。でも、ハリーは、「あたらしいぼうしだよ」と、つよがりを行いました。

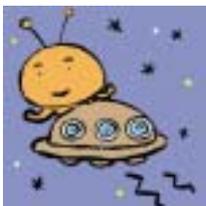


「すみれちゃん」 石井 睦美/作 偕成社

すみれちゃんは、おしゃれでおしゃれな女の子。自分のなまえを「フローレンス」にかえたいといたりして、いつもパパとママをこまらせています。でも妹が生まれることになって、いままでのようにわがママがいえなくなりました。

「ぼくが地球をすくうのだ」 石井 キヨシ /作 岩崎書店

学校の帰り道、ヒロタの足もとに、マンホールのふたのようなものが落ちてきました。そして、中から「わしは、宇宙人じゃ。青いケムリをだしているUFOのカケラをひろいあつめてほしい」という声がきこえてきました。



「右と左の不思議がわかる絵事典」(ちしきの本) 富永 裕久/作 PHP研究所

どうして自動車は左を走り、人は右をあるくの? なぜ数字は左から右にかくの? えんぴつやはしを右手で持つのはどうしてでしょう。ふだん、なにげなく使っている「右」と「左」について、ふしぎでおもしろい発見がいっぱいの本です。

あたらしくはいった本

えほん

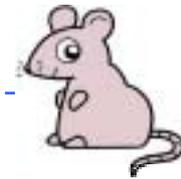
「春はあけぼの」 清少納言^{せいしょうなごん}/文 ほるぷ出版

むかし、清少納言という、文章^{ぶんしょう}をつくるのがじょうずな女の人がありました。その人が書いたこの文は、千年たった今でも、わたしたちの心をうごかします。テンポがよいので、声に出してよんでみましょう。



「きょうはソンミのうちにキムチをつけるひ！」 チェ・インソン/作 セーラー出版

韓国^{かんこく}では、さむい冬のあいだに食べるキムチを、いちどに大量^{たいりょう}に作ります。ソンミの家の裏庭^{うらにわ}にすんでいるネズミの家族^{かぞく}も、まねをしながら、キムチを漬^つけてみることにしました。



ものがたり

「まほういろのえのぐ」 つちだ よしはる/作 金の星社

きつねは、絵^えをかきながらたびをしています。ある時、病院^{びょういん}のかべに絵をかくことになりました。みんなはそのようすをたのしそうに見ていました。でも、車いすの女の子だけは、いつもかなしそうにしていたのです。



「シップ船長^{せんちょう}とゆきだるまのユキちゃん」 かどの えいこ/作 偕成社

シップさんは、チャチャ号の船長^{せんちょう}さんです。たのまれれば、どんなしごとでもひきうけます。でも、こんどばかりはこまりました。さむい北^{きた}の国^{くに}からあたたかい南^{みなみ}の国^{くに}へ、ゆきだるまをとどけてほしいとたのまれたからです。

「ドラキュラ・キューラに気をつける！」 山口 理/作 文渓堂

ドラキュラ族^{ぞく}の超^{ちよう}エリート、キューラが日本にやってきました。目的は日本人の血^ちをすって、その味やえいようを調べ、仲間^{なかま}たちに報告^{ほうこく}することです。そこで、親切^{しんせつ}な人のふりをして、みんなに近づこうとしたのですが、なかなか血^ちをすうことができません。



「妖精が丘」

アンデルセン / 原作 評論社

ある晩、妖精が丘のあたりがあまりにさわがしいので、森のトカゲたちは目をさましてしまいました。丘からきたミミズの話によれば、妖精一族が、だいじなお客を招いて、舞踏会をもよおすとのことです。どんなお客がくるのでしょうか？

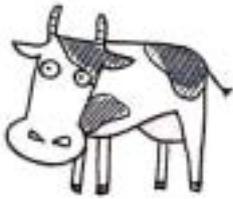


「にげろや、にげろ」

ヘレン・アームストロング / 作 評論社

ミルクの出なくなった雌牛のモーが、食肉工場へ送られる！

それをきいたネズミのラッティは、モーを連れて農場から逃げ出します。ヒツジのメーもやってきて、動物三人組は旅に出ることにしました。



「ハロルドのしっぽ」

ジョン・ベームルマンス・マルシアーノ / 作 B L 出版

ニューヨークの小さな公園にすむリスのハロルドは、人々にかわいがられて、いつもおいしいえさをもらっていました。ところがある日、ドブネズミのシドニーにだまされて、しっぽの毛をそられてしまいます。そのとたん、ネズミとまちがわれ公園から追いはらわれてしまいました。



ちしきの本

「もったいないばあさんがくるよ！」(えほん)

真珠 まりこ / 作 講談社

おちゃわんについたごはんつぶ、骨が多くてめんどろな魚。残したら「もったいなーい」と、ふしぎなおばあさんがやってきます。楽しみながら、ものを大切に作る心をそだてるお話がいっぱい。《もったいない》を教えてくれる絵本です。



「日本食の大研究」

PHP 研究所

日本に古くからつたわる魚や野菜を中心とした食事が、健康によいと見なおされています。世界からも日本食のよさがみとめられ注目を集めています。日本食について、図や写真を中心に紹介してあります。

3がつのこよみ



うめの花だよりがとどき、いよいよ春本番です。それぞれの学年がおわる、わかれのときでもあります。思い出を大切に、新しい門出にそなえましょう。

〈 きょうは何の日？ 〉



3月1日 「鼻」や「蜘蛛の糸」の作者、芥川龍之介がうまれた日

3月6日 啓蟄 冬の間、地面の下でねむっていた

虫たちも、このころになると、外へはいだしてくるそうです。

3月21日 春分の日 昼と夜の長さが同じになる日

3月27日 江戸時代の俳人松尾芭蕉が『奥の細道』へ旅立った日

旅をしながら、すぐれた俳句をたくさん作りました。 - 1689年(元禄2年) -

3月3日

桃の節句(ひなまつり)

もとは、人間の心やからだのけがれを、かみで作った人形にうつして、川にながしたのがはじまり。

図書館しょうかい! - とやま市民交流館 図書サービスコーナーの巻 -

「とやま市民交流館 図書サービスコーナー」は、富山駅まえの、C i Cビル 3階にあります。



ここには、パソコンが10台おいてあり、みなさんが、自分でインターネットやCD-ROMを使って、いろいろなことをしらべられるようになっています。

子どもの本のコーナーでは、えほんやかみしばいを楽しむことができます。

編集・発行 富山市立図書館 富山市丸の内1丁目4-50
電話 076-432-7272